

## 2022 年度研究教育部会全国リーダー研修会報告

開催日時：2023年1月29日（日）9：00～17：00  
会場：Web会議

2022 年度研究教育部会全国リーダー研修会は午前と午後の 2 部構成で実施された。

### 【午前の部】

#### 1. 研究教育職域における事業の推進について

##### I. 2022 年度事業報告

2020 年度から『管理栄養士・栄養士養成システムの充実と科学的根拠の蓄積を生業とした研究活動の推進及び普及、そして実践活動を通して食と健康の専門職としての責務を果たす』をビジョンとして、事業推進委員会を中心に活動した。活動の 4 つの柱は「研究力・教育力の向上」「倫理綱領の普及」「会員増対策」「養成校間のネットワークの構築」とし、全国リーダー研修会（2023 年 1 月 29 日）と全国栄養士大会（2022 年 7 月 8 日～8 月 7 日オンライン）が実施された。

##### II. 2023 年度以降の事業計画

（公社）日本栄養士会職域事業部会（7 職域理事で構成）にて、すべての職域において「政策」集団としての「政策につながる」ことをビジョンに掲げ、事業計画を推進することとなった。研究教育部会の課題について、過去の基本事業を継続しつつ、以下のように細分化した 4 つの中期目標を掲げて事業を展開していく。

- 1)：即戦力となる管理栄養士・栄養士を養成するためのカリキュラムの再考と他職域事業部との連携の強化
- 2)：教員の研究力・教育力に向けた事業の支援（教員に対する教育・研究環境の実態調査や教員の資質向上に対する事業の運営）
- 3)：科学的根拠に基づいた栄養学研究的の推進
- 4)：専門職（養成）教育システムの基盤整備（Society5.0 社会を見据えた教育システムの再構築）

その他、事業推進委員会、臨地実習の実際の改定検討ワーキング会議、実態調査検討ワーキング会議、全国研究教育栄養士研修会、全国リーダー研修会および全国栄養士大会（2023 年 6 月 28 日～9 月 3 日オンライン、「話術～AI、ICT 時代を勝ち抜く手段～」）を開催予定。

#### 2. 日本栄養士会の今後の動向について

・日本栄養士会の将来目標として、管理栄養士・栄養士の職能団体の重要業績評価指標の具体的数値目標を掲げ、長期目標とする。

例) 会員数増加対策、認定管理栄養士・栄養士取得者数、全国管理栄養士登録者数など

・職域統轄事業部においては、中期目標

（2020-2023）として以下の内容について検討中である。①各職域の活動の共有化および公益活動活性化の検討、②各職域における政策課題および事業、調査・研究のバックアップ体制の検討（研究・教育センター（仮）との連携）、③各職域における人材育成の方向性の検討、④各職域における会員増対策の目標設定の検討

#### 3. ブロック別交流

近畿地区ブロックの交流会では、主に学生にどのように栄養士会を認知させるか、学生を会員へ誘導するかなどについて意見交換を行った。事例としては、日本栄養士会や各府県栄養士会の HP にある学生向けコンテンツの授業での活用やゲストスピーカーとして会員を招く、栄養士会の意義と入会のメリットを伝える、生涯教育研修会の学生参加費無料などが示された。また、ブロック内養成校間のつながり強化のため、研修会の開催や情報共有も必要との認識を得た。

### 【午後の部】

「魅力的な人間育成に向けて～新時代の管理栄養士・栄養士の人材育成を考える～」をテーマにして、以下の 3 名による講演が行われた。

・「VUCA 時代の人材育成～学生のウェルビーイングを高めるには～」

（山梨学院大学学長 青山貴子氏）

・「病院の栄養部門で考える魅力的な人材とは～今、ここでの取り組み～」

（国家公務員共済組合連合会

虎の門病院栄養部部長 土井悦子氏）

・「デジタル時代の管理栄養士・栄養士の人材育成を考える～化学嫌いな学生 vs 栄養素の学び、失敗の繰り返しからみえるもの～」

（女子栄養大学応用有機化学研究室教授 赤井昭二氏）

3 名の講師に共通していたことは、『Z 世代』（西暦 2000 年前後に生まれたスマホ世代）の学生や職員への向き合い方、育てる側の心得や工夫であった。ブレイクアウトルームでのグループワークや参考となる書籍紹介などあり、収穫の多い内容であった。

\* 金間大介著「先生、どうか皆の前ではめしないで下さい」（東洋経済新報社）

\* 岩井俊憲著「みんな違う、それでもチームで仕事をするために大切なこと」（Discover）

（文責 研教 谷口信子）